



2015年度 事業報告

公益財団法人東京YWCA

目次

ご挨拶.....	1
東京YWCA 2015 年度基本方針	2
Ⅰ 平和と人権事業.....	3
Ⅱ 青少年育成事業.....	6
Ⅲ 女性の健康事業.....	8
Ⅳ 社会福祉に資する事業.....	10
Ⅴ 非営利機関・団体への施設貸与事業.....	12
Ⅵ 東日本大震災被災者支援事業.....	13
Ⅶ 収益事業および共益的な事業.....	14
数字・資料で見る東京YWCAの事業活動.....	15
2015 年度公益財団法人東京YWCA組織図.....	23
理事・監事・評議員.....	23
加盟・協力団体.....	24
賛助会員・寄付者.....	24
財務諸表.....	26
監査報告.....	29
施設一覧	

ご挨拶

新年度も約四分の一を経過し、皆様にはご精励のことと拝察致します。ここに公益財団法人東京YWCAの2015年度事業報告を申し上げますのは、一重に関係諸機関の皆様のお蔭であり、感謝致しております。

本法人の全体的状況は、財政上の厳しさは相変わらずながら、格別大きな問題は生じず、ほぼ着実な歩みを続けて参りました。その中で幾つか特筆すべき点を述べさせて戴きます。

学童保育は調布市の要請を受け、新たに放課後子供教室を含め6施設に規模を拡大致しました。最初はいささかの混乱があったものの次第に落ち着き、順調に運営されております。保育園も堅調で、3月には3回目の卒園式を執り行うことができました。

10年は続けるとの決意で始めた東日本大震災被災者支援事業は、夢藤哲彦チャリティピアノリサイタル、支援バザー等、会員手づくりのイベントを初め、個人・企業からのご寄付、中央共同募金会等の助成を得て中間点を越えました。福島状況変化等により、今後は事業形態を少し変更しつつ継続して参る所存でございます。

大きなこととして、板橋センター内で障がい者の就労支援の場となる「つくい館」の着工を見たことが挙げられます。板橋区志村にお住まいであった故筑井康夫氏のご遺贈を頂戴して実現したもので、本年6月の竣工予定です。ここで事業実施にあたる非営利活動法人東京YWCA福祉会は、これも地域の方から土地・建物をご提供頂いて、グループホーム「Y'sホーム ハイホー」の運営を開始しました。開設早々満室となり、勤務員の人練りに追われるものの、入居者の方々が喜んで生活していらっしゃることは、支援する当財団としても多とするところでございます。

最後に、関係各位には今年度も一層のご支援、ご鞭撻をお願いして報告とさせて戴きます。

2016年6月

公益財団法人東京YWCA

代表理事 川戸れい子

東京YWCA 2015年度基本方針

定款に定めた目的を達成するため、世界YWCAに連なる地域YWCAのひとつとして、東京YWCAは、以下の基本方針・重点課題のもとに各事業を行った。「非戦・非核・非暴力」の立場で、すべての人の人権が守られる平和な社会の実現を目指し、学びを継続すると共にさまざまなアクションが起こされたことが今年度の特徴である。公益事業を支えるための資金調達のしくみ作りについては、理事会のもとに置かれたファンドレイジングプロジェクトを中心に検討を進め、会員の協力により具体的成果を得た。使命を共に推進する若い仲間が確実に育ってきている。

運営面では、5年目を迎えた公益財団法人として他団体や行政との連携を図りつつ事業計画に沿って各事業の充実に努めた。

東京YWCA 2015年度基本方針・重点課題

日本YWCAのビジョン(※)をふまえ、東京YWCAとして2015年度基本方針・重点課題は以下のとおりであった。

基本方針

1. 非戦の立場に立ち、平和憲法を護り、活かす。
2. 核兵器のない世界、原発に頼らない社会を目指す。
3. 環境保全のために循環型社会を目指す。
4. いのちを尊び、平和を願い求める青少年を育てる。
5. 個人の尊厳を重んじ、支え合う社会を目指す。

重点課題

1. 危機感を共有し、憲法改悪阻止のために行動する。
2. 脱原発のために行動する。
3. 公益事業を支えるためのファンドレイジングを推進する。
4. 青年枠（35歳以下）の会員増加に努める。

(※)日本YWCAビジョン

使命 イエス・キリストに学び、共に生きる世界を実現する。
世界の人々と共に人権・平和・環境の問題に取り組む。

第31総会期主題

平和を実現する人々は幸いである—マタイによる福音書5章9節

日本YWCAビジョン2015

- (1) 非核・非暴力による平和を構築する
 - ・平和憲法をまもり、世界に広める。
 - ・原発のない社会をつくる。
 - ・市民レベルで東北アジアの信頼関係を築く。
- (2) 女性と子どもの権利をまもる
- (3) 若い女性のリーダーシップを養成する

I 平和と人権事業



「留学生の母親」運動 対面の会



Christmas for Peace 2015 トークセッション

平和、非暴力、非核、非戦を訴え、人権が尊重され、すべての人が共に生きる世界の実現を目指し、社会で不当な圧力を受けやすい人々を支援する事業を実施した。各事業は、多くの方々からのご寄付、また助成金、補助金などの財政的支援と事業に直接関わり、ご協力いただいた支援者の皆様により実施することが出来た。

1. 日本で学ぶ外国人留学生支援事業

a 家庭交流

1961年に始まった外国人留学生との家庭交流（「留学生の母親」運動）の要とも言える「組み合わせ（留学生と日本人家庭1対1の交流）」は、140人の留学生が説明会に参加し、80組の会員（母親）との組み合わせが誕生した。80人の留学生の出身は、14の国と地域で、人数が多いのは、中国、タイ、台湾、モンゴル、マレーシア、ベトナムだった。特徴的なことは、大学院生が多く年齢が高いことで、「お母さん」（頼れる人）がほしいというより、日本人のことをもっと知りたいという希望が強かった。

12月には「留学生による日本語スピーチの集い」を開催した。日本語スピーチには30人の留学生から応募があったが、選考の結果、7人の留学生が出席し、カザフスタンと中国の留学生2人が審査員賞を受賞した。会場では引き続き「留学生と会員のつどい」をひらき、留学生と会員が歓談の時間を持った。

「留学生資金」は、無利息貸与の新規の申し込みはなかった。供与については、組み合わせ留学生から自転車の事故でかかった医療費に対して申し込みがあった。資金小委員会で協議した上で供与を行った。

b 留学生相談室

進学先や在留資格、宿舍探しやアルバイト、税金など生活上のあらゆる問題に対して電話や来室にて相談を受ける「留学生相談室」（1990年開室）は、相談件数1,778件（前年度1,746件、日本語支援「火曜ルーム」参加者数含む）であった。今年度は、相談員の減少から相談日を週4回から3回に減らしたが、相談件数に大きな影響はなく微増となった。来室した留学生の内訳は、中国30%、台湾17%、韓国3%、その他10%、それ以外に外国人と交流のある日本人等40%となっている。ショートホームステイと宿泊を伴わないホームビジットも実施し、44人（前年度46人）の留学生が参加した。定例勉強会以外に公開勉強会も行い、留学生を取り巻く現状の理解に努めた。

c 日本語支援

「留学生談話室」（1979年開室）は外国人来室者が806人（前年度723人）だった。10月には第2回日本の家庭料理講座「みんなで作って食べようおかあさんの味」を実施し定員20名を上回る留学生の参加があった。

留学生が日本人ボランティアと1対1で行う留学生相談室の日本語支援「火曜ルーム」は、毎回安定した人数が参加するようになった。ホームページからの予約が定着し、新規登録者の3割はメールで申し込みをしている。参加留学生は述べ363人（前年度260人）となった。

2. 留学生助成事業

「留学生の母親」運動奨学金(1982年発足)は、日本で学ぶ、勉学に意欲的、かつ経済的に困難な外国人留学生に対し、留学目的が達成できるよう助成した。平和な社会の実現を目指し、将来の活躍が期待される留学生を支援するという目的にそって書類選考と面接を行った結果、6名の留学生を奨学金受給者に決定し、1名につき年額36万円を支給した。1名の受給者が後期から2年間、兵役のため休学することになり、奨学金の支給は前期のみとなった。奨学生には、年3回奨学生報告会をひらき、奨学金小委員会や会員が勉学や生活の様子を聞き、また、「留学生の母親」運動のプログラムである卒業お祝い会への招待など、交流の機会を設けるなど、奨学生に給付のみならず、精神的なサポートも行った。今年度の奨学生は、社会貢献やボランティアに関心が高かったため、10月の奨学生報告会では、会員2名からボランティアやNGOの活動の経験を聞く機会をつくった。年3回の奨学生報告会の締めくくりである3月の報告会では、寄付者を招いて、日頃の勉学の様子を発表してもらった。

3. 中国帰国者日本語支援事業

a 中国帰国者日本語教室

中国帰国者が日本に定着し、地域社会にとけこみ、自立した生活を営んでいくために必要となる日本語の基礎を習得することを目的に、中国残留孤児援護基金自立研修事業の再委託事業として中国帰国者に対し日本語教室を行った。

b 日本語サロン

日本語サロンは、日本語教室を修了した主に高齢の帰国者を対象に日本語の運用力を身につけ、社会参加をうながすことを目的に実施した。学習進度により4つのグループに分け、それぞれ年間30回開催した。日本語教室の講師による指導と話し相手のボランティアが関わることで細やかな対応ができ、学習者の日本語の理解を高めることを助けた。季節ごとの行事や日本の風習などを教材に取り入れたり、新聞記事を持ち寄ったり、日本地図を使って全国の都道府県名を覚え特産物の理解を深めたり、各グループの担当講師の創意工夫により、ボランティアがサポートしながら、日本語学習を支援した。また、秋には日本語サロンの各グループからの発表会(詩の朗読、自己紹介、好きなもの、自分の家族について等)を行い、会員との歓談を通して交流を深めた。

4. 平和をつくるキャンペーン

a 平和、非暴力、非核、非戦の啓発活動

戦後70年を迎えた2015年。日本国憲法の平和主義が危機的状況を迎えた。9月19日に参議院で強行採決され成立した平和安全保障関連法によって、国際紛争解決の手段として日本が戦争に加担することが可能になった。民意を無視するかのような政府のうごきに抗い、この流れを阻止するために学習会を重ね、一人ひとりが行動できる判断力を養い、連帯していく力を得ることを目的に「憲法カフェ」を5回実施し、延べ200名を超える参加があった。地域拠点の国領センターでも子どもを連れて参加できる身近な内容で実施した。

8月に松井久子監督ドキュメンタリー映画「何を怖れる」上映会を東京YWCA会館と武蔵野センターで実施した。午前、午後、夜の3回の上映会に総勢325名の参加があった。「フェミニズムやウーマンリブへの偏見がなくなり、女性も男性も自分らしく自由に生きられる時代を築いていきたい」との感想が参加者から寄せられた。東京YWCA会館では松井久子監督の舞台挨拶、武蔵野センターには、出演者の上野千鶴子氏も加わり懇談の時を過ごした。「怖れてばかりいる生き方でなく、自らが声をあげて女性としての生きづらさを乗り越えて行こう」との出演者の言葉に、参加者は勇気を与えられた。

クリスマスは「平和へ想いをよせ、祈り、求めるとき」と位置付け、Christmas for Peace 2015 (Peace Maker's Day)を開催した。今年のテーマを「平和をつなぐ」とし、真の平和の意味を日本キリスト教団武蔵野緑教会の柳下明子牧師より伺ったあと、トークセッションをひらき、戦争体験者、平和活動に取り組む若い世代、子育て中の世代から5名の出演者が次世代へ平和をつなげる想い、メッセージを語った。出演者と会場の参加者との質疑応答では、戦時中、国民は何も知らされない状況に置かれ、政府の統制下にあったという体験者の言葉に若い世代からは、今では想像できないといった発言もあり、多世代にわたる参加者が平和の意味を一緒に考えることが出来た。

毎年11月に開催する地域のキャンペーン「むさしの市民平和月間」参加プログラムは、武蔵野センターで「原発」をテーマに講演会を開催した。「0422 市民クリスマス」は、41回目の今年度も、電話局番0422の教会（超教派）・YMCA・YWCAが合同で行われた。

b HIV/AIDS啓発のためのキャンペーン

今年度は具体的な取り組みは実施しなかった。

5. 平和と人権に関する人材育成事業

この事業は、暴力の被害にあった女性や子どもの生活再建と権利回復の支援を充実させるために、支援する側がよりよい支援を安定して提供することができるようにサポートすることを目的として、DV被害者の支援者のための支援を行った。2009年度から事業開発を進めてきたが、2013年度から「つながる」「はかる」「まなぶ」の3つのアプローチで本格的に事業をスタートし、3年目を迎えた。

「つながる」のアプローチでは、一人でケースを抱え込んだり孤立しがちな支援者が、団体や所属を超えてつながり、支援に役立つ有機的なネットワークをつくる目的で、支援者サロンを10回開催した。今年度は「支援者と健康」をテーマに、それぞれのセルフケアの方法や、日頃の悩み等を参加者同士で共有した。

「はかる」では、支援の目安となる指標を作り、客観的に振り返ることで支援の質の向上を目指している。今年度は共同研究者の武蔵野大学大学院 小西聖子研究室（発表者 嶋美香）が日本トラウマティック・ストレス学会にて「デルファイ法を用いたDV被害者支援のガイドラインの開発」として発表した他、指標の冊子化に向けての作業を行った。

「まなぶ」のアプローチでは、それぞれの支援現場の課題やニーズに合わせたオーダーメイドの研修を、9団体に対して19回行った。講座開催においては、ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会からの寄付を得て、これまで東京YWCA会館で行ってきた「DVを経験した人と協働するための支援者トレーニング」およびそのフォローアップ研修を、青森市にて北東北地方の支援者を対象に開催することができた。その他に、日本郵便株式会社の年賀寄附配分の助成金により、「これからの支援に必要な“新しいリーダーシップ”とは～話して、聞いて、考える講座～」を実施した。この講座では、支援スキルや質の向上のためのプログラムに加えて、必要な支援を持続可能にしていくためのチーム運営や協働の仕組みづくりに欠かせない、支援者のリーダーシップ・トレーニングを実施することができた。

HIV/AIDS啓発のための人材養成は、今年度は具体的な取り組みは実施しなかった。

7月から12月まで大学生2名をインターンとして受け入れ、講座等の準備に関わりながらDV被害者支援や日本の男女共同参画の現状を学び深める研修を行った。

6. NPO/NGO団体への語学支援

東京YWCA国際語学ボランティアズILV（いるぶ）は、英文資料を活用したい、情報を世界に発信したい、というNPO/NGOからの依頼を受け、英語に関する翻訳・通訳を無償で行った。依頼案件は、昨年度に引き続き、継続して依頼されるケースが多く、内容としては、発展途上国支援や小児がん等難病の子どもの緩和ケアについて等、さまざまなものがあった。NPO法人の研修、プログラム視察の同行通訳の依頼もあった。10月には、日英翻訳のスキルアップ研修を行い、参加者は一般16名、ILVメンバー7名で講師の丁寧な解説が好評だった。多くの団体から翻訳・通訳の質の高さを評価されている。

Ⅱ 青少年育成事業



ハロウィンパーティー（英語で異文化理解）



秋をみつけにでかけよう（教育キャンプ）

青少年育成事業は、子どもたちが他者と共に生きるグローバルな視点をもった人として全人格的に成長できるよう、教育キャンプ等を通して今年度も自己肯定感、自発性、創造力、社会性、持続力、豊かな感受性を育むことを目的として事業を展開した。

すべての事業は、ボランティア、専門指導者によって無事実施することが出来た。多方面からのご支援に心より感謝したい。

1. 教育キャンプ

7、8月に東京YWCA野尻キャンプ場（長野県信濃町）に於いて、幼児から中高生を対象に発達段階に合わせたキャンププログラムを実施した。「わいわいキャンプ」は年長児から小学2年生男女を対象に「ゆかりハウス」で実施。親元を離れての宿泊体験とみんなで話し合いながらグループ作りを中心として据えた。水遊び・アーチェリー・クラフトなど自分で考えてプログラムを選ぶことも体験した。「小学生チャレンジキャンプ」は小学3年生から6年生男女を対象に実施、追跡ハイキングでは普段踏み入らない場所も含め敷地全体を巡った。チャレンジキャンプが最後となる小学6年生は野宿にも挑戦した。ご寄付により福島県の小学生5名を招待することができた。「中高生スーパーチャレンジ・ガールズキャンプ」は、中高生女子を対象に7泊8日で実施した。通常のキャンプアクティビティに加え、町内の博物館と道の駅での社会体験を行い、地元を学び、地元の人と交流する時間を作った。毎日ふりかえりを行い、社会体験報告会には体験先の方を招き夕食を共にした。戦後70年の平和のプログラムではお寺を訪問し女性住職から戦争体験を聞き、平和とは何かについて意見交換する時間をもった。

春・夏・秋に実施したファミリーキャンプでは、子どもたちだけでなく、親同士で交流する時間をもつことができた。

信濃小中学校1年から6年生対象に、夏の1泊2日「子どもキャンプ」の他、新規に10月にはハロウィンテーマとした異文化理解プログラムを実施した。外国文化に接することが少ない地元のニーズに合うプログラムを展開することができた。

12月に年長児から小学6年生対象と中高生対象のスキーキャンプを菅平高原スノーリゾートで実施した。昼間はスキー講習を実施し、宿舎ではグループごとにテーマに合わせたスタンツなどを発表しキャンパーの創造性を育むプログラムを意識した。3月は年長から小学6年生を対象にスキーキャンプを実施し、最終日にはレベルに合わせた課題が出され一人ひとりが挑戦した。皆の前で滑りを披露し、キャンパー皆が冬の自然を楽しむだけでなく、スキーにも自信をもつことができた。

*「子どもキャンプ」は、独立行政法人国立青少年教育振興機構「子どもゆめ基金」からの助成金を運営費の一部として実施。

2. 体験学習

a 子ども会

「子どもクラブもたろう」は、小学生25名の登録があり、国領センターをフィールドに8回の月例活動を行った。武蔵野センターで実施している「子ども会」は、昨年度から登録人数が減少し、小学生9名が登録。月例活動5回とお泊り会1回を行った。家庭や学校とは違う環境の中で思い切り体を動かす外遊び、興味関心を広げる野外料理や工作などの活動を通し、子どもたち一人ひとりの個性が引き出され、皆で一緒に作り上げる楽しさを体験した。保護者からは、新しい友だちができた、コミュニケーションが上手になった、遊びを作り出すのが上手になった、小さな子どもが好きだと気づいた、など、子どもたちの様子についてのコメントが寄せられた。

ボランティアリーダーは、25名が登録。活動日ごとに目的共有と企画実施、終了後の評価を行った。また、2014年度から受け入

れを開始した中高校生のジュニアリーダーに中学1年生1名が登録した。

b 親子で楽しむアウトドアライフ

東京近郊で四季折々の自然に親しむ日帰り体験プログラムを6回実施した。神奈川県をフィールドとした磯遊びでは、講師の解説で生き物を観察し、自然体験を行った。NPO 法人自然環境アカデミーの協力を得て、八王子で田植えと稲刈りも体験。稲刈りで収穫したもち米を使って国領センターで餅つきを行った。キャンセル待ちが多かったため、日程を追加して東京YWCA会館でも実施した。また、3月には都心でバードウォッチングを行った。自然環境を通して子どもの関心を引き出し、家族で自然と触れ合う時間を大切にするプログラムを展開した。

c 青少年水泳

心身の健全な成長をめざし泳力を養うことを目的に、東京YWCA会館のプールにおいて、スイミングとシンクロの講習を実施した。ジュニアスイミング(小学1~4年生男女対象)は定員に達したため、小学1、2年生対象の初心者クラスを増設して受けとめた。着衣泳やプールでのクリスマス会も行い、水の安全についての意識を高め水に親しむ機会も持ち、子どもたちは楽しみながら各種泳法を習得した。また、夏・春休み短期講習を実施し、普段クラスに通っていない子ども達も参加し、5日間集中して泳力を養った。ジュニアシンクロは小学3年生から高校生の女子が参加し、シンクロの基礎の習得をめざし、10月にはシンクロ発表会で大勢の観客の前で演技をする貴重な経験をした。ティーンズスイミングは対象を下げて小学4年生から中学3年生の女子とし、月曜から水曜に変更したところ参加者が昨年より増加した。シンクロや水球の要素も取り入れ、楽しみながら各種泳法の上達を目指した。

d 創作活動・異文化理解

武蔵野センターで行う創作活動では、3歳から小学生を対象とした「絵と工作」を月2回実施した。子どもたち一人ひとりの感性と創造性を引き出し、豊かな表現力を育むことを目的に、光るオブジェ、絵具の混ざる偶然性を体験する内容やコラージュなど、講師が与えるテーマ、または子どもたちが自分で決めるテーマで制作を行った。2月から3月には武蔵野センター1階ロビーにて「YWCA子どもアート展」を行い、子どもたちの表現の豊かさを来館者に伝える機会とした。

異文化理解は、年間32回のコミュニケーション英語の体験学習に加え、10月「ハロウィン」、12月「クリスマス」をテーマに異文化理解プログラムを行った。

3. 学習支援

日本語を母語としない親を持つ子どもたちへの日本語・学習支援「いちごの部屋」は8年目を迎えた。他団体からの紹介で参加する子どもが増え、4歳から中学3年生12人の子どもたちが支援を受けた。特に小学校高学年から中学生が増えている。約20人の支援者は、子どもたちが楽しく学びながら基礎的な力がつくよう丁寧な支援を続けた。また、秋以降は、特にニーズの高い小学校高学年と中学生に集中的な支援を行った。一方、中学生への支援を充実させるため、日本語教員養成課程のある大学教員に働きかけ、専門性のある大学生の参加があった。

地域で子ども支援に関わる市民、学生らを対象に「外国にルーツを持つ子どもの現状と課題」「発達障がい児への学習支援」「暴力が子どもたちにおよぼす影響～DVと外国籍女性の理解～」など4回の連続研修会を武蔵野市の後援で実施した。さらに3回のフォローアップ研修を行った。

*研修会は公益財団法人俱進会からの助成により実施。

4. 青少年リーダー養成

青少年活動に関心を持ちこれから活動をしようとする人、また現在関わっている人を対象に、宿泊トレーニングを含め全7回の研修を実施した。前半は「キャンプ概論」「リスクマネジメント」「コミュニケーションゲーム」「キャンプソング」など野外活動で子どもに関わる際に必要とされる基本的内容を学び、後半は、板橋センターの「シマウマくらぶ(障がいのある子どもの放課後等デイサービス)」で、支援を必要とする子どもたちと実際に接し、体験を行った。東京YWCAのリソースを活かした内容となった。

森林ワークキャンプは年4回実施。森林伐採と植樹の準備を行い、最終回で大山桜10本とカラマツ200本を植樹した。回数を増やしたことから参加者の技術が向上し、キャンプ場内の森林整備にも技術を活かすことができるようになった。

*「リーダー養成講座」は、独立行政法人国立青少年教育振興機構「子どもゆめ基金」からの助成金を運営費の一部として実施。

*「森林ワークキャンプ」は、林野庁「森林・山村多面的機能発揮対策交付金」からの助成金を運営費の一部として実施。

Ⅲ 女性の健康事業



呼吸体操グランドアイチでリラックス（健康セミナー）



仲間と一緒にだから楽しい（あひるの会）

この事業は運動の機会を必要とする女性の心身の健全育成を図ることを目的としている。高齢である、身体に障がいがある、病後であるなど、運動の機会を得にくい状況にある女性でも安心して運動できるよう、対象者のニーズに合わせた運動の機会を提供し事業を展開した。今年度も多くの方々からご支援ご協力を頂いたことに心から感謝したい。

1. 女性の健康づくり

サポートコースは、プールやスタジオ、ジムでの適度な運動を継続していくことにより、体力の維持・向上や生活習慣病の予防などの目標を達成できるよう一人ひとりを支援した。定期的に体組成のチェックと運動カウンセリングを行い、目的や健康状態に応じた無理のない運動の計画を立て、生活習慣についてアドバイスした。運動習慣の確立しているメンバーは定期的な運動を欠かさず、健康状態を維持していた。サポートコースの在籍状況は、昨年度に比べ新規登録が増えて退会は減り、在籍者数は年平均275名に回復した。新規の登録者の年齢層は20代から70代と幅広く若年層の登録も増えたが、1年未満で退会に至る人が多かった。新規登録者の定着を図ることが引き続き課題となっている。またホームページを見て見学に訪れる人が昨年より増えた。ホームページのリニューアルにより、事業内容がわかりやすくなったことで周知が図られたものと思われる。

健康セミナーは、7月、11月、3月の3回実施した。7月の「知っておきたい健康診断活用術」では、後期高齢者が人口の3分の1を占める2025年問題を踏まえ、健康長寿のための予防活動として、健康診断、がん検診、予防接種をどう活用するかを学んだ。病気を予防するために日頃の運動や食事など健康のために実践していることの大切さを再認識する機会ともなった。講義内容はサポートコースメンバーに配布して情報の共有を図った。11月の「グランドアイチ～呼吸の話と簡単呼吸体操～」では呼吸に関わるからだのしくみを学び、心地よい音楽をききながら呼吸と連動させた体操を行った。3月の「リンパピクス」には20～80代の幅広い年代の女性が参加しリンパの流れや血行を促進して免疫力を高めるエクササイズを体験した。どのセミナーも健康づくりに役立つ情報を楽しく学び体験できる内容だった。

からだところの健康相談は、隔月で実施し、幅広い年代の女性の悩み、心配事、不安の相談に応じた。こころの健康相談は利用回数を一人年に3回までとしたことで、昨年度に比べ新規の利用者が増えた。

2. 疾患後の女性の健康づくり

a 乳がん手術後の女性のためのプログラム（アンコア）

アンコアは、乳がん手術後の女性を対象に、術後の腕や肩の運動障害の改善とQOLの向上を目的とする全8回のプログラムを2期実施した。内容は運動、講義、情報の共有を組み合わせ、乳腺外科医、リンパセラピスト、栄養士など各分野の専門家を招いて術後の生活に役立つカリキュラムを組んだ。30代から60代の女性が参加し、ほとんどが新規の参加者だった。参加者は講義を熱心に受け、毎回スタジオとプールで行うエクササイズにも積極的に参加した。回を重ねるにつれ和気あいあいとした雰囲気

気の中でグループがまとまっていた。参加者同士の情報交換の回では、自分の体調や不安について率直に語り合い、共通の悩みや思いを共有した。初回と最終回に実施する体力チェックアンケートでは、腕や肩の可動域が改善した、術側の脇や背中痛みやむくみが改善した、姿勢が改善した、精神的にリラックスした、自信が持てるようになったなどの記述が多くみられ、参加者の心身の回復が伺えた。8週間仲間と一緒に楽しく学び運動して親睦も深まり、終了後も交流を続けている。またアンコア終了後、参加者の3割が、サポートコースメンバーとなったりスクールを受講したりして運動を継続している。

b 腰・膝の関節痛の予防、改善のための水中運動（ディープウォーターウォーキング）

腰や膝に痛みや不具合を抱える人が、日常の生活動作が楽に行えるようになることを目的に、水中運動のクラスを2コマ実施した。足の着くところでの水中歩行と水深3.5メートルの深さを活用した水中運動により、下半身や体幹の筋肉を強化し柔軟性を高めて、膝や腰への負担を軽減することを目指した。各期開始時には姿勢チェックを行い、終了時には効果を確認するアンケート調査も実施した。年間通してほぼ満員で、50代後半から80代までの幅広い年齢層の女性が参加した。今年度より金曜クラスは回数を4回増やして実施し、参加者からは期間が空かないので運動を継続でき体調がよいと好評だった。アンケートでは、関節の痛みが軽減した、階段の昇降が以前より楽になった、姿勢が改善したなどの成果を実感している人が多かった。長く続けている参加者は体幹が強化され、体力レベルが上がってきておりトレーニングの強度を上げるなどして対応した。プログラムのニーズは高いが、満員で新規の参加者を受けとめられないため、次年度に向けてクラスの増設を検討した。

3. 障がい児・者の健康づくり

a 肢体不自由者水泳（あひるの会）

肢体不自由者が水泳を通して喜びと自信を得られるよう、競技ではなくレクリエーションの一助として、ボランティアがマンツーマンで介助しながら水泳指導を行った。10代から60代までの参加者を木曜A・Bコースと土曜Cコースで受けとめた。参加者はメンバーやボランティアと交流しながら水泳を楽しみ、水の中で体を動かすことによりリラックスして、毎回のプログラム終了時には入水前より関節の動きが改善していた。木曜Aコースは、陸上介助のみを必要としプールの中では一人で泳ぐことのできる参加者が、運動内容を自分で決めて自分のペースで楽しんだ。土曜コースは欠席が多く全員が揃うことはなかったが、クロールで25m泳げるようになるなど泳力の向上が見られた。新しいボランティアが2名加わり、参加者の障がいの様子や介助方法などについて共通理解をもちながらより良い支援を目指した。4月の勉強会では参加者一人ひとりの目標、介助の仕方、指導の際の注意点を確認し、実際に車いすでシャワールーム、プールサイドを移動する方法、お風呂やプールに入る際の介助の方法について学びあった。9月には上半期の検討会を行い、介助していて気付いたことや不安に思うことを共有し意見を出し合った。車いす参加者の介助を3人体制で行い、ボランティアが腰を痛めないで移動がスムーズにいくよう工夫をした。また次年度にむけて土曜コースの時間などについて検討を重ねた。

*この事業では、社会福祉法人東京都共同募金会からの助成金を運営費の一部として実施した。

b 発達に遅れや偏りのある女兒の親子水泳（かめさんくらぶ）

発達に遅れや偏りのある女兒が、プールでお母さんと触れ合いながら水泳を習得することをめざし、隔週土曜日に年20回の講習を行った。泳力に応じたグループに分け、子ども一人ひとりの成長の段階や個性に合わせた指導を行った。新規に3組が加わり、年間通して満員となった。今年度より中学生になった継続者2組を時間をずらして受けとめ泳力を養った。新規の参加者は最初緊張していたが、徐々にクラスに馴染んで水泳を楽しんでいた。継続している子どもたちは母親がプールに入れなくてもクラスがスムーズに行えるようになり、25mを完泳できるようになるなど体力や泳力面でも成長が見られた。3月の最終日にはクラス前に参加者と指導者が共に1年のふりかえりの時間を持ち、母親からは、子どもと一緒にプールに入ることによりリラックスできる、母親同士励ましあえる、子どもがプールでできることが一つずつ増えていくことがうれしいなどの感想が聞かれた。

c アクアサポート

1人ではプールでの運動が難しい、身体に障がいのある人や高齢者のためのマンツーマンプログラムとして実施し、継続して1名が利用した。

IV 社会福祉に資する事業



学校内の学童で初の進級卒所お祝い会（染地小学童クラブ）



楽しく交流しました。ハイ、チーズ！！

（ケアサポートデイ/キッズガーデン）

社会福祉事業では、地域行政とのかかわりにおいて、板橋区補助金、調布市補助金・委託費等を受ける一方で、地域に資する事業の充実のため、申し入れや提言を行った。法制度の改正や社会情勢の変動の中で、長期の見通しを持って安定した事業展開を行うことは常に課題である。また、法や行政の枠組みによらない東京YWCA独自の事業は、多くのボランティアのかかわりによって実施され、ご寄付によって支えられた。心から感謝したい。

1. 療育事業

13年目を迎えたキッズガーデンは、児童福祉法に基づく「児童発達支援事業」と「放課後等デイサービス」2事業による多機能型である。職員研修やスーパービジョンの充実により常に療育の質の向上に努めた。「小集団療育」を基本とする中、「個別療育」が必要且つ有効な子どもへの取り組みを試行、待機児童減少をはかった。「保育所等訪問」と「相談支援」事業に特化された区からの補助金により、保育園、学校等との連携を大きく強化することができた。また、区内発達支援ネットワークメンバー、特別支援学校の協議会委員、板橋区社会福祉協議会評議員等として、地域の福祉・教育分野との連携協力関係の強化をすすめた。

板橋地域の障がい児から障がい者への広がり支援する関連団体の行う事業への支援は、前年度に設立されたNPO法人東京YWCA福祉会の事業開設に向け、地域関係者と共に尽力した。

*キッズガーデンは運営費の一部を、板橋区の「障がい児療育訓練事業補助金」より補助を受け実施した。

2. 発達支援相談事業および発達支援体験事業

発達支援相談事業は板橋センターにて継続した。発達支援体験事業は、板橋センターでは、「にじいろ教室」としてあらたに陶芸・ダンス・お菓子作りの体験活動を開始、各々の専門家と療育の専門職が協力して一人ひとりの子どものニーズに合った活動を展開した。国領センターでは、音楽・陶芸・サッカー活動と夏休み恒例のデイキャンプをそれぞれ実施し、子どもたち一人ひとりの成長を促すことができた。

3. 障がい児家族支援体験事業

1) きょうだい児のための「障がい児きょうだいの会『きらりんこ』」

今年度も、きょうだい児の居場所の一つとして、同じ立場の友だちやボランティアリーダーと心行くまで遊び交流するプログラムを、キャンプを含め4回行った。継続参加者が多く定着しており、友だち、リーダーとの関係性が深まっている。

2) 母親たちのための「障がい児きょうだいの会『いどばた』」

障がい児ときょうだい児を育てる母親たちの情報交換の場であり、語り合いの場である「いどばた」は、板橋拠点で定期的に開き、子どもたちの成長とともに変化する課題について話し合う場となった。立ち上げメンバーが後輩の母親たちをサポートする場にもなり、メンバーの世代の広がりにつながった。

3) 家族が参加するプログラム「障がい児きょうだいの会『ふぁみりんこ』」

都立赤塚公園でバーベキューを行った。普段子どもがきりりんこに参加している家族や、初めて活動に参加する家族、きょうだいの会を支えているリーダーが集った。年一回のプログラムであるが、家族が心おきなく集い、楽しめる場となった。

4) 親子参加型の自然体験プログラム「いっぽの会」

自然体験と様々な家族の出会いと交流を目的としたプログラムを、キャンプと日帰り活動（ハイキング）の2回実施した。自然の中で、障がい児のいる家族もいない家族も共に参加し、リーダーの関わりによってつなげられ、豊かな時間を過ごすことができた。参加者が安全に、かつ心おきなく楽しめるよう、養成を含めたリーダー体制を整えることが課題となった。

* 「いっぽの会森のキャンプ」を、独立行政法人国立青少年教育振興機構「子どもゆめ基金」からの助成金を運営費の一部として実施した。

4. 障がい児・者介護事業

障害者総合支援法に基づき、障がい児・者延べ121人の利用者に対し月間平均116時間程度のサービス提供を行った。今年度は利用者を学校やバスポイントから自宅や学童クラブ等へ送り届ける移動支援が減少し、利用者の自宅家事や身体介護を行う居宅介護の実績が上回った。理由としてはサービス対象の子どもの体調不良や、成長する段階に合わせて移動の支援のニーズが減ったことによる。また重度の障がいをもつ方の生活全般を支援するために、病院や美容院など様々な外出先に合わせた対応が求められた。居宅介護や移動支援のサービス提供により、利用者の地域生活の継続や社会参加の機会の確保ができた。

5. 高齢者介護事業

要支援、要介護状態にある高齢者に対して、介護保険法に基づく「居宅介護支援」「訪問介護」「通所介護」の3つのサービス提供により、日常生活の課題の解決とともに生活の質が向上するように支援を行った。「居宅介護支援」は年間延べ323人に対してケアプラン作成を行い、支援を行った。介護認定が厳しい傾向が続いており、要介護1、2の軽度者が認定結果で要支援になり、ケアプラン作成数が減少した。「訪問介護」は、要介護者が減少し、要支援者が増えた。「通所介護」は実績改善が大きな課題であったが、2015年4月の介護保険制度改正と報酬改定により、小規模の通所介護事業は大幅に報酬が下がり、大きな影響を受けたことと、次年度にさらなる制度改正が控えているために総合的に検討した結果、2015年度末で事業を休止することになった。

6. 高齢者電話相談事業

中高年の「孤独な時」の身近な一人になることを目的とし電話相談を行う「シニアダイヤル」は、発足して20年目を迎えた。昨年度の「新人相談員養成講座」修了者3名が加わり、26人の相談員が、年間273日一日平均8.4件の相談を受け止めた。今年度の養成講座は9月から12月にかけて実施し、6名が修了した。

相談員の質向上とより良い運営を目的とした研修は電話相談に並行して重要であり、今年度も数多くの研修を重ねた。3グループに分かれて毎月開催される月例研修会は、専門家の指導の下、相談事例を取り上げ日頃の電話相談を振り返った。11月には2日間の集中的な合同研修を行い、自己開示と他者理解、チームビルディング、ケーススタディ、相談員と電話のかけ手との境界線などについて学んだ。3月にはYWCAのミッションを学ぶ合同研修を行った。

7. 介護予防体験事業

高齢者サロン「ティーポットサロン」は、高齢者が地域で交流の場を持ち、豊かな時間を過ごすことで心身の健康を維持することを目的としている。今年度も調布市や地域からの期待に応じて3クルールのグループ活動を行ったが、人気が高くリピーターも多

かった。参加者のさらなる高齢化が進む中、サロンが貴重な外出の機会になっているという声もある。「男の料理教室」は4年目でさらに内容が充実し、参加者が東京YWCA会員グループの活動に繋がる例もあった。

*この事業は調布市健康づくり事業の補助金を得て実施した。

8. 統合保育事業

この事業は、調布市の認可保育園「東京YWCAまきば保育園」として、子どもたちの個性を大切に、子どもたち自らが育っていく力を信じ、子どもたちと共にある保育に取り組んだ。3月には、異年齢保育の中で3年を過ごした初めての卒園生を送り出した。「まきばの保育」への保護者の理解が深められたことは利用者アンケートでの98%の「大変良い」「良い」に表れている。環境整備面では、東京都助成による芝生化を実施した。保育園地域交流活動として職員と会員が協働して「国領オータムフェア」を実施し、地域交流に貢献することができた。板橋センターから譲り受けたログハウスは保護者の協力を得て移築を完成し、子どもたちの遊びの世界がさらに魅力あるものになった。

*統合保育事業をはじめとする各事業が行われている国領センターでは、環境整備費の一部に、調布市の保存樹木等せん定補助金、および保存樹木補助金を受け、敷地内の環境整備を実施した。

9. 子育て支援相談事業

武蔵野センターにおいて、0歳から就園前の親子のための、楽しいプログラムの提供と地域の親子を受け止める場の設定に力を注ぎ、年間27回実施した。子育ての相談を受ける一方で、特別プログラムとして、コミュニケーション講座、お母さんと赤ちゃんのための音のワーク、歌と踊りの紙芝居、クリスマス会などを実施し、地域の子育て支援に寄与した。

10. 学童保育事業

調布市立わいわい学童クラブは、調布市から委託を受けた公設民営学童クラブとして7年目となった。調布市は学童保育の区割を大幅に変え、児童館併設型を除くすべての学童クラブを民間に委託する政策を打ち出し、東京YWCAは、2015年度から新たに小学校内学童クラブ2カ所と放課後子供教室ユーフオー3カ所の運営を引き受け、調布市からの委託事業は計6カ所へと大幅に拡大した。学童保育は日常生活を大切にすることが基本だが、親子交流会、デイキャンプ、夏祭り、庭木工作、国領オータムフェアへの参加、庭の草木を使った染物と巾着づくり、勤労感謝の日の贈物づくり、遠足、進級を祝う会、児童館祭りや学童児童館対抗サッカー大会・ドッチビー大会参加等プログラムの充実を努めた。3学童では、障がい児を含め、在籍児一人ひとりにとって学童クラブが第二の家庭になれるよう、集団と個のバランスをとりながら育成に取り組み、わいわい学童では、昨年度に続き重度アレルギー児への対応を熟慮した。3つの放課後子供教室ユーフオーでは、開設時間が長くなったことやお弁当導入など大きな変化の中、子どもたちの遊びの場・放課後の居場所としての役割を担った。法人としての6施設全体職員研修を年2回、「より良いチーム形成を目指して」「ニーズのある子どもたちへの関わり方」をテーマに実施し研鑽に努めた。各学童・放課後子供教室ユーフオーでは、学校とのミーティングを月1回実施し、連携に努めた。

V 非営利機関・団体への施設貸与事業

この事業では、東京YWCAと共通性のある目的を持つ非営利の機関、団体に、東京YWCA会館の部屋を貸与している。今年度新たに2階の1室を貸室とし、2階と3階に合わせて11の財団、社団、NPO、社会福祉法人が入居している。立地の良さや手ごろな間取りに加え、YWCAへの信頼から、募集の有無にかかわらず入居希望の問い合わせを受ける状況である。

また、地下から2階までの空き部屋を時間単位で貸し出している。特に貸室に入居中の団体が定期的に利用している。その他の団体に対しても、短時間での利用を可能としたり、必要な機材を廉価で提供するなど、財政的な厳しさを抱える非営利団体の事業活動を間接的に支援している。

VI 東日本大震災被災者支援事業

東京YWCAで持っている専門性とネットワークを使い、東京YWCA全体で被災者支援に取り組んだ。2015年度に計画した事業は、個人、団体、企業からのご寄付と助成金、ボランティアによって、無事実施することができたことに改めて感謝したい。

1. 放射能被害への支援

a 放射線の値が高い地域に住む子どもと保護者を対象とした転地保養（リフレッシュ）プログラムの実施：転地保養で仲間を得た母親たちが福島で支え合い、子どもの健康を目的とした日常活動ができるよう、これまでの冬のリフレッシュステイ参加者を中心に子ども会（YWCA福島キッズクラブ）を発足させ、将来的には転地保養を自力でできるよう、グループ運営やプログラムの企画、実施、福島の他団体とのネットワークづくりなどをサポートした。7月に福島県の社会教育団体に登録し、県の補助金を受け、12月に冬のリフレッシュステイを6泊7日間、都内で行った。子ども会が主催する形をとり、東京YWCAがプログラムを実施した。午前には子どもは学習支援、母親はクラフトやヨガ、料理講習など日常活動の参考になるものを、午後は戸外で自然体験とレクリエーション、夜は静かに過ごす生活重視の内容で、ボランティア延べ177人の協力を得て、充実したプログラムを行うことができた。子ども会は6月、9月、12月、2月に例会を開き、福島友の会の協力で味噌づくり体験などを行った。3月の総会で日本YWCAへの加盟も検討したが、メンバーが広域で頻りに集まらないことから、一旦解散し、今後はゆるやかなグループとして活動することになった。

*中央共同募金会「ボラサポ」と公益財団法人日本YWCAの助成金、個人、団体、企業のご寄付で実施した。

b 放射線の値が高い地域の親子を対象とした子育て支援：先の子ども会活動を通して実施した。

2. 被災地支援

a 福島県沿岸の町「新地町」の小学生を対象としたキャンプ：これまでのキャンプの写真を集め、写真展を都内、新地町で開き、福岡県田川市のギャラリーに貸し出しをした。2015年度のキャンプは、町主催、東京YWCA協力で実施を目指し、東京YWCA主催キャンプは終了した。

b 福島県新地町広畑仮設住宅との交流：新地町仮設住宅との交流は、全戸が高台移転できたことから、終了した。

c 産直応援：東京YWCA会館での東日本大震災支援バザー、武蔵野センターでのバザー等で、被災地から仕入れを行った。

3. 放射能被害により東京近郊に避難している人への支援

a 避難母子が安心して集える場の提供と子育て支援：避難母子対象の子育て支援の場♪福福カフェ♪は、避難者の定住を視野に、東京YWCA武蔵野センターの子育て支援に吸収した。

b 東京近郊に避難している人を対象とした広域お茶会等の実施：第5回東京YWCA東日本大震災支援バザーで広域避難者のお茶会を開き、災害復興まちづくり支援機構の協力で弁護士による専門家相談を実施した。10月から広域避難者支援連絡会 in 東京にオブザーバー参加し、ふれあいフェスティバルや広域避難者ミーティングの実施に協力した。

4. 啓発

a 東日本大震災の風化を防ぐフォーラム：6月に新地町にフォーカスしたフォーラムを明治大学と共催した。新地町の復興の目的が立ったことから、明治大学との共催事業は今年度で終了する。

b 被災地訪問スタディーツアー：今年度は子ども会支援に集中したため実施を延期した。

c 第5回東日本大震災支援バザー：被災者支援事業のためのチャリティー、広域避難者のお茶会と専門家相談、被災地産直の3本柱で実施した。ボランティアは準備期間を含め延500人が参集し、東京でできる被災者支援として定着してきている。

d コンサート、ドイツ文学講座：演奏者や講師の協力でチャリティーコンサートや講座を開講することができた。参加者はその後に被災者支援への寄付者や他の事業への参加者にもつながっている。

Ⅶ 収益事業および共益的な事業

1. 不動産賃貸事業

法人が所有する施設の一部を、収益を目的に企業、団体等に貸与している。東京YWCA会館4階から8階の5フロアのうち3フロアが2014年秋から1年以上にわたって空室が続いていたが、ようやく8月に2フロアの入居が決まった。残り1フロアは年度末までに成約には至らなかった。近隣に新しいオフィスビルが増える中、各フロア200坪超の大きな延床面積の貸室であるため、将来的な空室リスクを回避するためにも内装や設備の環境整備が急務となっている。特に空調システムについてはセントラル方式から個別空調へのニーズが高いため、更新工事に向けての具体的な検討を開始した。また、22台収容可能な機械式駐車場は一部を月極めで貸し出している。設備の経年劣化が進み、機械トラブルや事故の発生を未然に防ぐために、全面的に保全工事を実施した。

東京YWCA会館および武蔵野センターでは、時間貸しで部屋を提供している。会議、講演会、セミナーと様々な目的で利用された結果、予算を上回る収益を得ることが出来た。長野県にある野尻キャンプ場ゆかりハウスは貸切りでの利用が2件あった。常駐スタッフがいない施設であり、食事の提供や利用者の受け入れ体制をその都度組むため宿泊料金が近隣施設より高めの設定となり、利用件数の増加を阻害している。次年度に向けて、より収益性を上げるための体制づくりや料金体系を模索した。

2. フィットネスクラブ事業

収益を目的として運営する女性専用フィットネスクラブは、体力づくりや余暇の充実などさまざまな目的を持った女性がプール、スタジオで自主的にトレーニングできる場を提供している。月会費が主な収益であり、メンバー数の増加を図るために年数回のキャンペーンをおこない集客を図った。春にホームページの全面リニューアルをおこなったことで、資料請求や見学が倍増し、入会にもつながった。数年来、在籍数が前年比を大きく下回る状況が続いてきたが、今年度末は前年同月より微増となった。年間平均では予算人数の達成には及ばなかった。20代から30代の若い層の入会も増えてきたが、定期的な利用に至らず退会するケースが多いため、スタッフからの声掛けやダイレクトメールでコンタクトを取ることや、利用ポイントに応じて成果を表彰するなど、継続率を高めるための対応に注力した。女性専用という施設の特長から肌を出すことを避けるイスラム圏の女性も複数利用している。

成人スクールは体力や運動能力の向上を目的に週1回、1クール10週で開講している。プール、スタジオ合わせて28クラスを開講。今年度はシンクロナイズドスイミングや日本泳法に満員となるクラスも出て好調に推移した。これらはプールの3.5Mの水深を生かした東京YWCAで歴史ある種目であり、生涯スポーツとしてより多くの一般女性に普及を図り収益を上げたい。秋には3年ごとに実施している「シンクロ発表会」を開催した。44人の出場者が日ごろの練習成果を披露し、約90名が観覧した。また東京YWCA体育事業が100年の歴史ある活動であることが、東京新聞で大きく報じられた。

3. クラス事業

生涯教育の視点に立ち、人格の向上や教養を深めるために各種の講座を行った。武蔵野センターでの「思いっきり歌」は昼間に講座を増設し、歌を通して心身のリフレッシュを図ることを目的に地域の女性に呼びかけ、昼夜平均で毎回10名程が参加した。料理講座「しあわせのレシピ」も毎回8名程が参加。初開催の「味噌づくり」も満員となった。ピーター・バラカン氏によるDJライブには52名の老若男女が参加。「ルーツ音楽の鼓動」と題し、特別の音響装置を使って、プロの技術者の力を借りての質の高いライブとなった。しかし事業として収益を出すことができていないため、見直しが必要となっている。

4. 販売事業

各会館に設置している自動販売機や無人購買コーナーで施設利用者に飲み物や日用品を販売した。有料コピー、フェアトレードグッズ、古本などの無人販売で、わずかに収益を上げている。

5. 会員グループ（理解普及事業）

法人の目的への理解を深めることを目指し、多様なテーマのグループワークを通して女性のリーダーシップを育て、最終的に、この法人の目的を実現する人を育てる事業である。年度末時点で4拠点合わせて63グループに延べ402名が登録があった。平和や聖書、語学の学び、障がいのある人を支えるボランティア、趣味を通しての交流などが活発におこなわれた。

数字・資料で見る東京YWCAの事業活動

I 平和と人権事業

I-1 日本で学ぶ外国人留学生支援事業

I-1-a 家庭交流

「組み合わせ」内訳(人)

会員	68
留学生	80

「組み合わせ」の留学生内訳(人)

国費生 (文部科学省)	9
日本語学校	38
専門学校	1
大学	11
大学院他	21

「組み合わせ」の会員内訳(人)

新会員	14
2年目以上の会員	54

(その内、留学生2人担当 12)

留学生資金貸与

前年度より継続返済		1
新規	長期貸与	0
	短期貸与	0

留学生組み合わせ出身国・地域

国・地域	人数	男性	女性
中国	26	13	13
タイ	12	6	6
モンゴル	8	3	5
ベトナム	5	4	1
台湾	10	3	7
韓国	1	1	
マレーシア	8	2	6
中国(香港)	2		2
インドネシア	2	1	1
ネパール	1	1	
ミャンマー	2	1	1
アメリカ	1		1
アンゴラ	1	1	
ニュージーランド	1		1
合計	80	36	44

支援事業の年間プログラム

	延参加者数			
	会員(ボランティア)	留学生	一般	合計
留学生のための「組み合わせ」説明会	7	140		147
留学生組み合わせ申し込み受付	10	102		112
組み合わせ「対面の会」	73	97	6	176
第1回母の会	54			54
留学生による日本語スピーチ・留学生と会員のつどい	51	54	12	117
第2回母の会	50			50
卒業お祝い会	28	12		40

I-1-b 留学生相談室

	開室日数	延ボランティア数		延相談者数/参加者数
		会員	一般	
留学生相談室	141	287		841
日本語支援「火曜ルーム」	41	200	163	363
ショートホームステイ・ホームビジット		参加留学生: 44	受け入れ家庭: 27	

I-1-c 日本語支援

	延回数	延ボランティア数		延参加者数	
		会員	一般	外国人	一般
留学生談話室	44	334	334	806	
日本語補習教室	2	2	0	3	

I-2 留学生助成事業

「留学生の母親」運動奨学金

応募者数	56
------	----

支給奨学生内訳[国・地域別]

ベトナム	2
韓国	3
中国	1
計	6

I-3 中国帰国者日本語支援事業

I-3-a 中国帰国者日本語教室

	学期	期間	延回数	延時間	クラス数	在籍者数
昼間部	前期	2015年2月16日～7月17日	120	300	3	19
	後期	2015年9月2日～2016年1月25日	80	200	2	13

I-3-b 日本語サロン

延回数	延ボランティア数	延参加者数
120	260	1180

I-4 平和をつくるキャンペーン

I-4-a 平和、非暴力、非核、非戦の啓発活動

【「憲法カフェ」】

テーマ	回数	参加者数
「沖縄戦を憶えて『泥の花』鑑賞会」	1	40
「誰が主役？－今の民主主義」	1	38
「戦後70年の今を考え直す」～沖縄の米軍基地問題を通して～	1	73
「憲法前文をみんなで読もう！」	1	25
安保法案通っちゃったけど「これから私たちに何ができるの？」	1	29

【上映会】

	回数	延参加者数
上映会「何を怖れる」	1日 (3回)	325

【クリスマス】

	回数	参加者数
青葉のまつり	1	15
Peace Maker's Day(Christmas for Peace 2015)	1	60

【他団体との協力】

	回数	参加者数
映画「日本と原発」監督の河合弘之さんと話そう(*1)	1	43
O422市民クリスマス(*2)	1	300

(*1)「むさしの市民平和月間」参加プログラム。(*)他団体との共催イベントで参加者は概数。

I-5 平和と人権に関する人材育成事業

I-5-a DV被害者の支援者のための支援

【DV被害者支援者のための「支援者サロン」】

延回数	延参加者数		
	女性	男性	合計
10	26	0	26

【主催講座等】

	延回数	延参加者数		
		女性	男性	合計
DVを経験した人と協働するための支援者トレーニング(2日間)	1	19	0	19
フォローアップ研修	1	10	0	10
グループリーダーシップについての勉強会	5	25	4	29
タッピングタッチ基礎講座	1	15	1	16
これからの支援に必要な“新しいリーダーシップ”とは(2日間)	1	16	0	16
さまざまな支援現場にあらわれる多様な性を生きる人たちとかわるための講座	1	15	2	17
新しい視点で聖書を学ぶ連続講座(前期)	6	48	14	107

【講師派遣】

派遣先	受講者数
社会福祉法人東京看護協会東が丘荘(8回)	延73
埼玉県婦人相談センター	53
川崎市かしまだ地域包括支援センター(3回)	延56
社会福祉法人 特別区人事・厚生事務組合 社会福祉事業団 宿所提供施設 淀橋荘(2回)	延13
一般社団法人ウエルク	20
公益財団法人日本女性学習財団	15
NPO法人Kiitos	25
世田谷区人権男女課	25
三鷹市企画課	9

I-6 NPO/NGO団体への語学支援

【依頼団体一覧】

公益社団法人Civic Force
特定非営利活動法人共存の森ネットワーク
公益財団法人日本YWCA
公益社団法人シャンティ国際ボランティア会
日本キリスト教協議会
特定非営利活動法人国境なき子どもたち
特定非営利活動法人シャイン・オン・キッズ
オイコレジット ジャパン
ECPAT(Stop子ども買春の会)

	回数	講師	参加者数
翻訳研修会	1	1	23

II 青少年育成事業

II-1 教育キャンプ

*人数は実数

プログラム	日数	参加者数			リーダー・講師数	参加人数合計
		男	女	合計		
野尻湖畔の半島にあるキャンプサイトで行う教育キャンプ						
小学1～3対象「わいわい」	3泊4日	11	23	34	12	46
小学4～6対象「チャレンジ」	4泊5日	6	22	28	13	41
中高生対象「スーパーチャレンジ・ガールズ」	7泊8日	—	7	7	15	22
小学1～6対象「子どもキャンプ」	1泊2日	12	18	30	8	38
教育キャンプに関心のある成人対象「カヌーキャンプ」	2泊3日	0	5	5	3	8
都会から離れ、スキーと雪遊びを入れた教育キャンプ						
冬小学生スキーキャンプ「びよんびよんスキークラブ」	3泊4日	24	29	53	16	69
冬中高生スキーキャンプ	3泊4日	11	10	21	4	25
春休み小中学生「びよんびよんスキークラブ」	3泊4日	4	15	19	8	27
恵泉スキー(委託キャンプ)	3泊4日	—	15	15	1	16
他団体からの委託キャンプ *参加者は男女総数						
上越保健医療福祉専門学校	2泊3日		18	18	6	24
北里大学看護専門学校	2泊3日		42	42	6	48
恵泉女学園大学	3泊4日		15	15	6	21
野尻キャンプ場を提供しYWCAのキャンプリーダーを派遣して行うキャンプ *参加者は男女総数						
日本基督教団竜ヶ崎教会キャンプ	3泊4日		39	39	4	43
日本基督教団東京教区東支区中高生キャンプ	3泊4日		50	50	4	54
品川区自然体験教室	4泊5日		72	72	5	77
調布市ウルトラキャンプ	3泊4日		80	80	5	85
児童、青少年をもつ親子、ファミリー対象に、コミュニケーション向上を目的としたキャンプ						
森のたんけん ファミリーキャンプ	2泊3日	11	8	19	6	25
森のたんけん 春をみつけにでかけよう	2泊3日	8	21	29	1	30
森のたんけん 秋をみつけにでかけよう	2泊3日	12	11	23	2	25

II-2 体験学習

II-2-a 子ども会

	延回数	延ボランティア数	延参加者数
子ども会(武蔵野)	6	30	55
ももたろう(国領)	8	41	172

II-2-b 親子で楽しむアウトドアライフ

プログラム名	延回数	延参加者数			延リーダー・講師数	延参加人数合計
		男	女	合計		
初夏の海で磯遊び	1	13	19	32	3	35
どろんこ田植え体験	1	15	25	40	3	43
きれいな川で水遊び (雨天のため、内容は博物館見学に変更)	1	10	6	16	3	19
みんなでザクザク! 稲刈り体験	1	13	25	38	3	41
もちつきとネイチャーゲーム	2	13	25	38	10	48
バードウォッチングと自然散策ツアー	1	7	6	13	3	16

II-2-c 青少年水泳

	延回数	延参加者
ジュニアスイミング(2クラス)	104	1825
ジュニアシンクロ	40	428
ティーンズスイミング	34	287
ジュニア短期講習(春1期、夏3期、臨時1ク)	20	383

II-2-d 創作活動・異文化理解

		延回数	平均参加者数
創作活動	クラフト	—	—
	絵と工作	36	6.5
	アトリエ	—	—
異文化理解		180	3

II-3 学習支援

日本語を母語としない親を持つ子どもとその保護者を対象にした日本語および学習支援

延回数	延ボランティア数	延参加者数(子ども)	延参加者数(保護者)
88	408	295	40

*対象とする子どもは、高校受験前まで。

参加者内訳(実数)

	人数
支援を受けた子ども	12
支援を受けた保護者	5

ボランティア研修会

延回数	延講師数	延参加者数(ボランティア)
7	10	99

II-4 青少年リーダー養成

	期間・日数	参加者数(宿泊ないものは延数)			リーダー・講師数	参加人数合計
		女	男	合計		
リーダーオリエンテーション	3回	2	4	6	0	6
リーダー研修会	5回	36	20	56	5	61
リーダートレーニングキャンプ	2泊3日	4	3	7	3	10
スキーリーダートレーニングキャンプ	2泊3日	5	2	7	2	9
春のワークキャンプ	5泊6日	11	10	21	0	21
5月 森林ワークキャンプ	1泊2日	1	10	11	5	16
6月 森林ワークキャンプ	1泊2日	1	7	8	4	12
8月 森林ワークキャンプ	1泊2日	0	7	7	5	12
10月森林ワークキャンプ	2泊3日	0	8	8	5	13
合計		60	71	131	29	160

III 女性の健康事業

III-1 女性の健康づくり

サポートコース利用者数

延入会者	延退会者	3月末在籍者
84	59	275

健康セミナー

テーマ	参加者数
知っておきたい健康診断活用術	17
簡単呼吸体操グランドアイチ	61
リンパビクス	48

健康相談

	延回数	延利用者数
からだの健康相談	5	9
こころの健康相談	5	7

III-2 疾患後の女性の健康づくり

	延回数	延参加者数
乳がん手術後の女性のためのプログラム	16	140
腰・膝の関節痛の予防、改善のための水中運動	84	1042

III-3 障がい児・者の健康づくり

	延回数	延参加者数	延ボランティア数
肢体不自由者水泳(あひるの会)	103	231	180
発達に遅れや偏りのある女児の親子水泳	20	112	5
アクアサポート	37	37	

IV 社会福祉に資する事業

IV-1 療育事業

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
キッズ ガーデン	延日数	18	18	22	22	16	19	22	19	19	16	20	21	232
	延実績利用者数	328	308	354	379	309	286	359	308	363	345	330	406	4075
	延べ実習生人数	3	17	36	14	9	13	38	21	9	11	19	21	211
シマウマ	延日数	3	3	3	3	16	4	4	2	3	4	4	3	52
	延実績利用者数	23	23	24	25	81	30	24	16	24	34	30	21	355
	延べ実習生人数	2	12	7	8	24	17	13	8	9	5	7	3	115

*キッズガーデン:障がい児(未就学児)児童発達支援事業。 シマウマ:障がいのある小中高生のための放課後等デイサービス(土曜)

	延回数	延参加者数		延回数	延参加者数
保護者会(キッズガーデン)	4	91	研修セミナー	2	123
保護者勉強会(キッズガーデン)	6	45	統合保育研修会	4	36
連携訪問者(キッズガーデン)	22	22			

IV-2 発達支援相談事業および発達支援体験事業

		延回数	延参加者数
発達支援相談事業	子ども発達支援室	30	57
	OT相談室(板橋)	-	-
	療育個別相談(国領)	-	-
	療育グループ(国領)	-	-
障がいのある 子どものための 体験学習	陶芸(小学生以上対象)(国領)	11	31
	音楽療法(幼児から中学生)(国領)	11	35
	サッカークリニック 1(小学1~2年生)(国領)	8	65
	サッカークリニック 2(小学3年生以上)(国領)	8	72
	カンオベア(集団生活スキル 小学生~中学生)(国領)	2	13
サポートプログラムにじいろ教室(陶芸・お菓子・ダンス)(板橋)	25	114	

IV-3 障がい児家族支援体験事業

	延回数	延ボランティア数	延参加者数
家族サポート(きょうだいの会 こどもの会 きらりんこ)	4	20	23
家族サポート(きょうだいの会 お母さんのためのいどばた)	10	-	46
家族サポート(きょうだいの会 家族のためのふぁみりんこ)	1	-	28
親子参加型の自然体験プログラム(いっぼの会)	2	19	55

IV-4 障がい児・者介護事業 および IV-5 高齢者介護事業

訪問介護

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実績利用者数		42	40	45	40	37	36	38	40	39	46	47	43	493
訪問 回数	介護給付	122	113	123	111	130	126	130	121	105	85	87	105	1,358.0
	予防介護	87	83	90	103	75	83	85	71	81	74	79	88	999.0
	支援費	105	85	93	90	75	85	95	73	80	95	90	100	1,066.0
	自由契約	7	3	3	5	2	3	9	12	8	10	8	1	71.0
	合計	321.0	284	309	309	282	297	319	277	274	264	264	294	3,494.0
訪問 時間	介護給付	118.75	112	128.25	114.5	133.75	130	131.75	123.75	105.75	86	90	104.25	1,378.75
	予防介護	84.75	81	87.5	100.75	72.75	81	83	70.75	80	73	77.75	87.25	979.50
	支援費	124.0	110	115	113.5	98.5	112.5	129.5	98.5	105	127.25	127.25	138.5	1,399.50
	自由契約	11.0	8.75	6.75	11.75	3	6.25	29.5	32.25	15	12	14.75	2	153.00
	合計	338.5	311.75	337.5	340.5	308.0	329.75	373.75	325.25	305.75	298.25	309.75	332.00	3,910.75

IV-5 高齢者介護事業

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
居宅介護 支援	在籍利用者数	30	33	29	29	29	29	28	28	25	23	22	21	326
	利用実績数	29	29	29	29	28	28	28	26	24	22	21	21	314
	認定調査	2	6	5	3	7	4	3	5	7	5	2	5	54
通所介護	実績利用者数	21	22	22	21	22	21	20	20	18	17	17	13	234
	開所日数	22	21	22	23	21	22	22	21	20	20	21	23	258
	延べ人数	122	125	127	141	126	125	140	116	108	103	84	87	1404
	ボランティア人数	3	4	4	4	4	31	3	5	3	3	10	3	77
実習生の 受け入れ	大学生施設体験	0	0	0	0	2	2	2	0		0	0	0	6
	ヘルパー研修	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

IV-6 高齢者電話相談事業

	延開室日数	延相談員数	年間相談件数
シニアダイヤル(孤独なときの身近な相談相手としての電話相談)	273	543	2284

IV-7 介護予防体験事業

	延回数	延参加者数
ティーポットサロン(地域に開かれた交流の場)	28	469

IV-8 統合保育事業

まきば 保育園 (国領)	年齢	在籍者数(3月末)
	0歳	9
	1歳	16
	2歳	16
	3歳	19
	4歳	19
5歳	19	

IV-10 学童保育事業

	延開所 日数	延人数
わいわい学童クラブ (東京YWCA国領センター内)	292	9083
染地小学童クラブ (調布市立染地小学校内)	292	5719
布田小学童クラブ (調布市立布田小学校内)	292	11873
杉森小ユーフオー (調布市立杉森小学校内)	292	6623
染地小ユーフオー (調布市立染地小学校内)	292	6819
布田小ユーフオー (調布市立布田小学校内)	292	5609

V 非営利機関・団体への施設貸与事業

非営利機関・団体優先フロア(賃貸契約)

貸与先団体数	11
--------	----

貸し会議室(時間貸し)

貸与先団体数	15	貸与件数	146
--------	----	------	-----

VI 東日本大震災被災者支援事業

	日数	回数	延参加者数			延ボランティア 数
			子ども	大人	合計	
福島県の親子のための リフレッシュステイ	6泊7日	1	12	8	20	177
新地っ子の夏休み	-	0	-	-	-	-

	日数	回数	参加者数
被災地とところをつなぐ 東日本大震災の風化を防ぐフォーラム ～福島県沿岸の町「新地町」の取り組みを事例として～	1日	1	220
第5回東京YWCA東日本大震災支援バザー	1日	1	683
ひと味違うドイツ文学講座	1日	4	87
第3回東京YWCA東日本大震災支援コンサート 想いを結ぶ 夢藤哲彦ピアノリサイタル	1日	1	126
新地っ子の夏休み写真展	1日	34	1,306

	日数	回数	参加者数		
			子ども	大人	合計
冬のリフレッシュステイ説明会	1日	1	30	30	60
冬のリフレッシュステイ顔合わせの会	1日	1	9	7	16

Ⅶ 収益事業および収益その他事業

Ⅶ-1 不動産賃貸事業

不動産賃貸(賃貸契約)

貸与先団体数	4
--------	---

貸し会議室(時間貸し)

貸与先団体数	28
貸与件数	131

ゆかりハウス

貸与先団体数	2
貸与件数	2

Ⅶ-2 フィットネスクラブ事業

在籍数

	延入会者	延退会者	3月末在籍数
フリーコースメンバー	98	95	389
法人メンバー	0	0	1

スクール

クラス	年間実施回数	累計参加者数	クラス	年間実施回数	累計参加者数
バレエ(土)	44	281	スイミング上級(水)	40	265
バレエ(月)	40	341	スイミング(ワオクラブ)フラミンゴ(月)	40	446
ヨガ(金)	44	762	スイミング(ワオクラブ)カモメ(水)	40	576
ヨガ(月)	40	489	水中ウォーキング(水1)	40	639
転倒予防	40	455	水中ウォーキング(水2)	40	729
フェルデンクライスメソッド	40	158	水中ウォーキング(月)	40	492
初めてのフラ	24	122	水中ウォーキング(土)	40	565
タイチーダンス	24	119	健康水泳	40	377
スイミング初級(水)	40	274	ダイビング(金)	42	179
スイミング初級(火)	40	228	日本泳法(火)	40	515
スイミング中級(金)	40	644	日本泳法(木)	40	152
スイミング中級(木)	40	365	シンクロナイズドスイミング(火)	40	326
スイミング中級(月)	40	532	シンクロナイズドスイミング(木)	40	545
スイミング上級(火)	40	693	シンクロナイズドスイミング(金)	40	496

パーソナルレッスン

	延参加者数
スタジオマンツーマンレッスン	302
プールプライベートレッスン	156

Ⅶ-3 クラス事業

	延回数	延参加者数
思いっきり歌	16	170
しあわせのレシピ	8	65
味噌づくり	1	14
ピーター・バラカンDJライブ	1	52

Ⅶ-5 会員グループ(理解普及事業)

グループ登録数	グループ登録者数		
	会員	一般	合計
63	314	88	402

Ⅷ その他

Ⅷ-1 会員数

	人数
成人会員(18歳以上の女性)	771
年少会員(18歳未満の女性)	0
成人会友(18歳以上の男性)	20
年少会友(18歳未満の男性)	0
賛助会員	37
合計	828

Ⅷ-2 職員数

常勤職員(2016年3月31日現在) 101人

Ⅷ-3 機関紙

発行実績：年 11 回、1300 部

対 象：東京 YWCA 会員、地域 YWCA、関係団体など

体 裁：A3 版 2 ページ

1 面主張記事

4 月号 NO. 703

イースターメッセージ 平和があるように（神崎雄二）

5 月号 NO. 704

「憲法 9 条」という希望をつなぐ（斉藤小百合）

号外：会員総会報告

6 月号 NO. 705

選挙が終わって何が残った？（川戸れい子）

7 月号 NO. 706

2015 年度加盟 YWCA 中央委員会報告（柏木妙子）

8 月号 NO. 707

善悪を見分ける力（松本敏之）

10 月号 NO. 708

療育の先へ つくい館 Y's ホーム ハイホー（川戸れい子、坂口和子）

11 月号 NO. 709

安全保障関連法の後に（川戸れい子）

12 月号 NO. 710

クリスマスメッセージ インマヌエル—神はだれと共におられるのか？

1 月号 NO. 711

年頭にあって 平和の種をまく（藤原聖帆）

2 月号 NO. 712

沖縄からの声 となりびと 若い米兵との出逢い（砂川真紀）

3 月号 NO. 713

会員総会資料 2016 年度基本方針・重点課題案 「平和の種」をまきつづけましょう（柏木妙子）

号外：選挙公報

Ⅷ-4 財団広報紙

発行実績：年 2 回（4 月、10 月）、2000 部

対 象：一般

体 裁：A4 版 4 ページ

特 集：vol.9（4 月）青少年育成事業部（キャンプ）、vol.10（10 月）平和と人権事業部（語学ボランティア）

Ⅷ-5 世界 YWCA、日本 YWCA 関連の集会および派遣

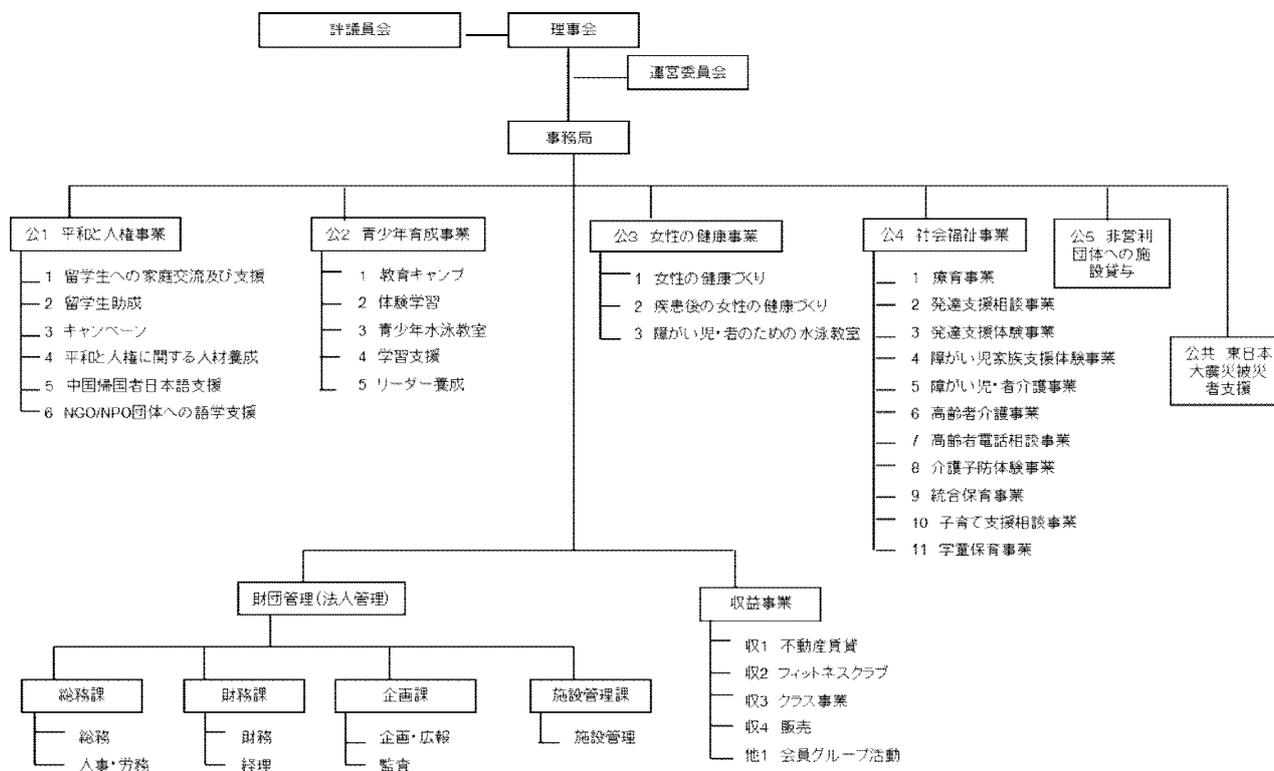
	日程
世界 YWCA デー集会	2015 年 4 月 25 日
世界 YWCA 総会（プレ総会（Young Women's Forum） タイ・バンコクにて	2015 年 10 月 9～10 日
世界 YWCA 総会（本会議）タイ・バンコクにて	2015 年 10 月 11～16 日
YMCA/YWCA 合同祈祷週における 東京 YMCA/在日本韓国 YMCA/東京 YWCA 合同祈祷会	2015 年 11 月 12 日

Ⅷ-6 YWCA 関連の海外からの来訪者

2015/10/20 メキシコ YWCA 会員、元世界 YWCA 運営委員 来訪

Ms. Andrea Nunez a

■2015 年度 公益財団法人東京YWCA 組織図



■理事・監事

代表理事 川戸れい子
 常務理事 尾崎裕美子
 理事 柏木妙子 柴田幸子 寺岡祥子 外山真理 新美まり 能美祐子 三宅香織
 監事 八木昭子 横川民子

2016/3/31 現在

■評議員

岩村太郎 及川津紀子 大島和美 河島京美 川島堅二 杉本策子 高橋りえ子 新田和子
 東平瑞江 細貝順子 本田真也 町田洋子 実生律子 桃井和馬 吉岡光人

2016/3/31 現在

■加盟・協力団体 (順不同)

公益財団法人公益法人協会 公益財団法人神田法人会 公益財団法人神田法人会源泉部会 一般財団法人東京社会保険協会 千代田年金委員会 神田防火管理者協議会 神田災害防止会 東京災害ボランティアネットワーク 社会福祉法人千代田区社会福祉協議会 人身売買禁止ネットワーク (JNATIP) 売買春問題ととりくむ会 NCC世界祈祷日実行委員会 NPO法人全国女性シェルターネット NPO法人日本国際教育交流協会 (JAFSA) 公益財団法人中国残留孤児援護基金 公益社団法人日本キャンプ協会 NPO法人自然体験活動推進協議会 公益社団法人国土緑化推進機構フォレスト・サポーターズ 長野森林組合 「出会いと体験の森へ」実行委員会 東京日本語ボランティアネットワーク 0422 キリスト教会合同プログラム実行委員会 むさしの市民平和の集い実行委員会 公益財団法人武蔵野市国際交流協会 民間相談機関連絡協議会 社会福祉法人調布市社会福祉協議会 調布市福祉まつり実行委員会 板橋区男女平等推進センター登録団体連絡会 社会福祉法人板橋区社会福祉協議会 一般社団法人全国児童発達支援協議会 区内療育機関連絡会 社会福祉法人東京都社会福祉協議会介護保険事業者連絡会 板橋区介護サービス全事業所連絡会 一般社団法人東京都民間保育園協会 公益財団法人東京都水泳協会 関東ブロックシンクロ委員会 水府流太田派連絡会 一般社団法人日本フィットネス産業協会 神田環境衛生協会 全国音訳ボランティアネットワーク 東京音訳グループ連絡会

■賛助会員・寄付者 (敬称略・五十音順)

賛助会員

(個人・団体)

青山美智子 明石一 有坂了堅 石川松子 石橋さなえ 石渡能子 市川寛 岩村太郎 内山康一 浦野和一
大海由嗣 岡田正義 忍足直子 活水学院同窓会 金井淑子 神崎典子 郡恭子 後藤恵子 小村明子 齋藤知弘
高月三世子 田中英夫 鳥羽和江 鳥羽恵 中瀬和子 新美まり 橋本永子 原田國子 福田眞紀子 藤井野百合
本田真也 三宅香織 宮下まり 桃井和馬 山口恒恵 山口洋子 渡辺寿美子

寄付者

(個人)

相澤加壽子 青木理恵子 赤川恵子 浅井春美 浅野和子 浅野歌都子 浅原由美 天野文子 有賀光子 有坂了堅
飯田典子 五十嵐和子 池上三喜子 池田祐輔 石井京子 石川杏菜 石川松子 石川玲子 石藤治子 石橋玲子
石渡能子 泉実紀子 市川順子 乾康子 井上久美子 井原文子 今井多美子 岩金滋代 岩城紀代子 上野操
内田信子 内田康夫 内山康一 内山佳子 宇津陽子 梅原忍 浦野和一 江尻美穂子 榎本祥子 榎本征子
及川津紀子 大久保智子 大崎美子 大沢登志子 大竹幸子 大谷翠 大野綾子 大庭貞江 大海由嗣 岡田知子
尾崎裕美子 長田直子 小澤敏 忍足直子 小平敏子 小田川悦子 角田彦平 梶野信子 梶山好美 柏木妙子
勝田寿信 加藤みち代 金井淑子 金子宏樹 鎌内啓子 川尻泰子 川戸れい子 菊田友美 北村和子 木對節子
木村滂子 桐山澤 楠本道子 国井愛子 國仲伸浩 久保かおり 熊谷麻子 郡司信幸 幸福花江 郡恭子
後藤恵子 小林圭司 小林秀雄 小林ヤス子 最所郁恵 齋藤民子 齋藤知弘 齊藤ヒロ 坂井史子 坂口和子
笹岡やすみ 佐々木浩子 佐藤浩子 佐藤雅大 佐藤マリ子 佐藤ゆみ子 J.E.ランデス 重川利枝 芝崎良子
柴田慶子 島崎真奈美 島崎玲子 島田真帆 下川憲子 白幡ゆき子 眞野由美子 菅谷弘華 杉野孝子 杉本陽子

(寄付者・前頁より続き)

鈴木加奈 鈴木孝幸 鈴木俊子 鈴木菜花 鈴木誠 鈴木伶子 関根秀幸 世良俊 相馬光子 高倉もも代
高月三世子 高橋謙輔 高橋礼子 田口美穂 田口理架子 竹内万里子 武田憲政 田坂紗久子 田島道子 辰島健
楯石てる子 田中幸子 田中美智子 谷口和代 谷山久美子 田村琴葉 田村セツ 田和榮 張涵宇 筑井康夫
榎田知恵 椿まゆみ 鶴田翔子 手島千景 戸井眞澄 樋田紗良 東方久男 堂山秀磨 土岐尚子 戸田美津子
外崎弘子 土肥怜子 外山真理 中澤典子 中島みさ子 中谷国子 中内侍ヨリ子 中西勲 中野キミ子
中村みゆき 那須野玲子 新美まり 西田悦子 新田和子 丹羽百代 布村美弥子 野崎斐子 橋本憲 蓮沼菖子
長谷川りゑ子 濱田文子 林加奈子 林里絵 原田國子 日笠征恵 平野久美子 平野恵子 平野夏希 風當恵津子
福田育代 藤井野百合 藤田阿弥子 藤田千花 藤村崇 二井佐代子 星光世 細川武 細野節 堀浩一郎
堀尾吉晴 堀木利夫 前田侑子 町田洋子 松浦靖子 松尾道夫 松木真奈 松崎美子 松下淳子 松田明美
丸山あき子 三浦宮吉 三鬼綾子 三島次郎 水上元子 三井公子 宮城崇美子 三宅香織 三宅文子 宮崎珠子
宮崎陽子 宮下まり 宮本久子 宮本統子 村上由樹 村上由美子 毛利亮子 森かれん 八木達郎 八木敏子
八木正子 矢崎美昭 八束嗣也 山口ふじ子 山崎郁子 山本悦子 横山貴志 吉岡郁子 吉岡喜人 吉崎哲哉
吉田明世 吉田朋子 吉田秀雄 吉田洋子 依田良子 米田淳紀 ランデス ハル 和田博子 渡辺峯 匿名 65名

(団体)

アサヒワンビールクラブ あひるの会を支える会 アレハンドロコンサート実行委員会 アンコアを支える会
医療法人社団巧智会 イタリア・エトルリアの旅 板橋センターの事業を支えるクリスマスバザー実行委員会
英語研究会 エコグループ オイコクレジット・ジャパン 国領オータムフェア実行委員会
カシオペイアリーダー有志 株式会社ルーモライフコーディネーション 9条世界宗教者会議
区民とつくる地場演劇の会 公益社団法人Civic Force 公益社団法人シャンティ国際ボランティア会
国領ミーティング 在韓被爆者問題市民会議 七彩会 シニアダイヤル有志 シマウマくらぶ親の会
聖書を読む会 全国友の会 地域英語研究会 東京YWCA東日本大震災支援バザー実行委員会
特定非営利活動法人シャイン・オン・キッズ 日本キリスト教団久が原教会 庭のワーク 野尻支援会
Bluebells まきば保育園卒園児保護者 まきば幼稚舎卒園生保護者 三菱商事株式会社
武蔵野センターの活動を支える会 ゆりの木工房 四葉珠算学院 「留学生の母親」運動千代田線沿線地域の会
「留学生の母親」運動グループまどか 「留学生の母親」運動工房「ひだまり」 「留学生の母親」運動を支える会
「留学生の母親」運動城南地域の会 「留学生の母親」運動西武線沿線地域の会
「留学生の母親」運動世田谷地域の会 Rachel Smile Box その他有志

企業からの物品寄付

セイコーエプソン株式会社

貸借対照表
2016年3月31日現在

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	296,354,260	307,915,039	△ 11,560,779
未収金	26,911,168	20,995,450	5,915,718
商品	518,649	567,482	△ 48,833
貯蔵品	110,808	212,000	△ 101,192
前払費用	4,175,450	4,175,450	0
前払金	870,358	3,548,599	△ 2,678,241
立替金	0	155,665	△ 155,665
流動資産合計	328,940,693	337,569,685	△ 8,628,992
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基本土地	86,917,089	86,917,089	0
基本建物	965,845,255	1,011,356,275	△ 45,511,020
基本建物付属設備	4,068,313	4,782,499	△ 714,186
基本投資有価証券	0	50,000,000	△ 50,000,000
基本財産預金	141,000,000	91,000,000	50,000,000
基本財産合計	1,197,830,657	1,244,055,863	△ 46,225,206
(2) 特定資産			
建物	97,345,249	100,601,986	△ 3,256,737
建物付属設備	41,549,318	47,949,239	△ 6,399,921
構築物	9,438,287	272,261	9,166,026
車両運搬具	1	1	0
什器備品	3,102,126	1,971,735	1,130,391
女性の健康サポート特定資産	15,000,000	15,000,000	0
留学生基金特定資産	26,475,423	26,475,423	0
留学生資金特定資産	3,690,202	3,720,202	△ 30,000
留学生奨学金特定資産	11,476,217	12,856,462	△ 1,380,245
会員サポート特定資産	800,000	800,000	0
介護職員研修特定資産	822,087	881,635	△ 59,548
中国帰国者日本語教室特定資産	2,000,000	2,000,000	0
預り敷金積立資産	163,001,524	162,509,824	491,700
フィットネス預り保証金引当資産	4,800,000	5,100,000	△ 300,000
野外環境教育預り保証金引当資産	9,400,000	11,400,000	△ 2,000,000
会館整備費積立資産	221,968,201	216,715,201	5,253,000
東京YWCA東日本大震災被災者支援積立資産	1,988,928	1,398,482	590,446
DV被害者への支援者支援全国展開プロジェクト積立資産	0	467,700	△ 467,700
会館修繕費積立資産	118,000,000	50,000,000	68,000,000
板橋センター増改築特定資産	137,664,354	0	137,664,354
保育園施設・設備整備特定資産	20,000,000	0	20,000,000
特定資産合計	888,521,917	660,120,151	228,401,766
(3) その他固定資産			
土地	4,567,750	4,567,750	0
建物	237,014,331	245,741,227	△ 8,726,896
建物付属設備	110,336,554	124,231,037	△ 13,894,483
構築物	6,791,230	7,947,722	△ 1,156,492
車両運搬具	3	3	0
什器備品	4,212,033	5,598,359	△ 1,386,326
リース資産	4,575,000	6,771,000	△ 2,196,000
建設仮勘定	38,157,920	0	38,157,920
ソフトウェア	2,273,800	4,603,763	△ 2,329,963
図書	1,761,120	1,761,120	0
電話加入権	2,395,068	2,395,068	0
差入保証金	70,000	70,000	0
出資金	30,000	30,000	0
留学生貸付金	0	20,000	△ 20,000
長期前払費用	4,175,450	8,350,900	△ 4,175,450
その他固定資産合計	416,360,259	412,087,949	4,272,310
固定資産合計	2,502,712,833	2,316,263,963	186,448,870
資産合計	2,831,653,526	2,653,833,648	177,819,878
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	49,215,059	22,988,293	26,226,766
未払法人税等	19,325,800	23,320,860	△ 3,995,060
未払消費税	9,822,200	12,397,400	△ 2,575,200
前受金	5,267,688	3,972,395	1,295,293
前受会費	0	14,000	△ 14,000
預り金	2,156,040	1,516,185	639,855
1年内返済予定長期借入金	2,760,000	2,760,000	0
リース債務	2,196,000	2,196,000	0
流動負債合計	90,742,787	69,165,133	21,577,654
2. 固定負債			
長期借入金	43,010,000	45,770,000	△ 2,760,000
預り保証金	14,200,000	16,500,000	△ 2,300,000
預り敷金	163,001,524	162,509,824	491,700
長期リース債務	2,379,000	4,575,000	△ 2,196,000
固定負債合計	222,590,524	229,354,824	△ 6,764,300
負債合計	313,333,311	298,519,957	14,813,354
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
寄付金	413,317,378	283,552,163	129,765,215
補助金・助成金	131,708,540	109,383,095	22,325,445
指定正味財産合計	545,025,918	392,935,258	152,090,660
(うち基本財産への充当額)	(177,662,654)	(181,938,614)	(△ 4,275,960)
(うち特定資産への充当額)	(367,363,264)	(210,996,644)	(156,366,620)
2. 一般正味財産	1,973,294,297	1,962,378,433	10,915,864
(うち基本財産への充当額)	(1,020,168,003)	(1,062,117,249)	(△ 41,949,246)
(うち特定資産への充当額)	(343,957,129)	(270,113,683)	(73,843,446)
正味財産合計	2,518,320,215	2,355,313,691	163,006,524
負債及び正味財産合計	2,831,653,526	2,653,833,648	177,819,878

正味財産増減計算書

2015年4月1日から2016年3月31日

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
①基本財産運用益	158,090	133,433	24,657
基本財産受取利息	133,090	132,679	411
基本財産有価証券利息	25,000	754	24,246
②特定資産運用益	3,866,594	6,669,330	△ 2,802,736
特定資産受取利息	203,157	275,497	△ 72,340
特定資産有価証券利息	3,631,000	6,379,250	△ 2,748,250
特定資産受取利息振替額	32,437	14,583	17,854
③受取会費	4,641,600	4,686,150	△ 44,550
成人受取会費	4,091,600	4,156,150	△ 64,550
成人会友受取会費	100,000	120,000	△ 20,000
賛助会員受取会費	450,000	410,000	40,000
④事業収益	558,203,031	563,783,393	△ 5,580,362
登録費収益	4,371,440	4,585,750	△ 214,310
授業料・講習料収益	65,095,898	62,304,229	2,791,669
フィットネス会費収益	87,561,864	87,760,431	△ 198,567
利用料収益	11,327,288	11,021,761	305,527
教材費収益	209,201	219,984	△ 10,783
手数料収益	375,374	241,683	133,691
売上収益	2,688,531	2,672,540	15,991
施設設備利用料収益	7,632,805	8,087,774	△ 454,969
賃料収益	306,903,199	313,302,861	△ 6,399,662
障がい児者支援費収益	43,173,511	40,068,345	3,105,166
障がい児者利用負担金収益	2,542,454	2,395,622	146,832
相談料収益	111,500	145,500	△ 34,000
高齢者介護報酬収益	23,834,023	28,189,644	△ 4,355,621
高齢者利用負担金収益	2,143,743	2,445,989	△ 302,246
高齢者受託収益	232,200	341,280	△ 109,080
⑤受取補助金等	295,640,489	239,425,667	56,214,822
受取地方補助金 助成金	87,274,615	186,873,172	△ 99,598,557
受取民間補助金助成金	6,942,997	3,498,112	3,444,885
受取受託収益	100,500,986	39,969,856	60,531,130
受取補助金等振替額	100,921,891	9,084,527	91,837,364
⑥受取寄付金	26,399,001	23,482,588	2,916,413
受取寄付金	16,401,762	14,293,879	2,107,883
受取寄付金振替額	9,997,239	9,188,709	808,530
⑦雑収益	6,255,132	6,035,110	220,022
受取利息	61,980	58,158	3,822
その他雑収益	6,062,252	5,916,352	145,900
受入研修費収益	130,000	60,000	70,000
利用者等外給食費収益	900	600	300
経常収益計	895,163,937	844,215,671	50,948,266
(2) 経常費用			
①事業費	864,380,076	803,533,772	60,846,304
職員給料手当	110,752,905	97,019,426	13,733,479
職員通勤手当	4,045,489	3,446,992	598,497
職員法定福利費	17,889,089	15,882,845	2,006,244
職員中退共退職金	4,601,089	3,882,314	718,775
教員給料手当	115,964,912	100,867,482	15,097,430
教員通勤手当	2,898,772	2,646,192	252,580
教員法定福利費	17,427,336	15,549,573	1,877,763
教員中退共退職金	4,446,820	4,405,460	41,360
非常勤給料手当	132,191,094	93,012,299	39,178,795
非常勤通勤手当	7,219,789	6,269,016	950,773
非常勤法定福利費	6,724,704	4,045,712	2,678,992
福利厚生費	1,451,116	1,436,195	14,921
手数料	6,262,309	4,060,428	2,201,881
委託費	51,787,365	56,104,775	△ 4,317,410
支払報酬	7,712,905	10,180,909	△ 2,468,004
支援費	1,800,824	0	1,800,824
消耗品費	14,367,027	12,217,635	2,149,392
消耗備品費	682,560	386,928	295,632
食材費	11,652,027	11,182,537	469,490
旅費交通費	11,208,201	13,002,417	△ 1,794,216
通信運搬費	6,519,403	5,706,510	812,893
印刷製本費	901,100	1,093,397	△ 192,297
広告宣伝費	272,612	1,282,589	△ 1,009,977
会議費	270,951	209,726	61,225
渉外費	39,195	64,928	△ 25,733
諸会費	439,598	457,598	△ 18,000
教材費	2,919,224	2,448,720	470,504
新聞図書費	168,568	153,604	14,964
研修費	243,580	483,177	△ 239,597
賃借料	1,829,157	2,196,804	△ 367,647
リース料	6,199,674	5,760,044	439,630
仕入費	2,119,156	1,838,925	280,231
修繕費	14,575,143	16,773,019	△ 2,197,876
衛生清掃費	20,681,182	21,892,985	△ 1,211,803
光熱水費	59,313,097	59,874,420	△ 561,323

科目	当年度	前年度	増減
保険料	4,121,292	4,102,761	18,531
公租公課	106,147,639	105,185,099	962,540
支払寄付金	1,000	16,000	△ 15,000
保守点検料	9,007,913	8,821,213	186,700
奨学給付費	1,980,000	1,800,000	180,000
支払利息	567,180	596,100	△ 28,920
雑費	2,400,096	775,723	1,624,373
車輛費	344,959	450,969	△ 106,010
減価償却費	88,056,574	101,774,876	△ 13,718,302
長期前払費用償却額	4,175,450	4,175,450	0
②管理費	35,250,762	57,874,997	△ 22,624,235
職員給料手当	9,503,428	24,918,159	△ 15,414,731
職員通勤手当	271,706	770,924	△ 499,218
職員法定福利費	1,670,855	4,207,452	△ 2,536,597
職員中退共退職金	498,051	1,218,686	△ 720,635
非常勤給料手当	952,617	1,331,068	△ 378,451
非常勤通勤手当	87,778	89,766	△ 1,988
非常勤法定福利費	7,893	7,454	439
福利厚生費	30,326	96,860	△ 66,534
手数料	782,644	829,884	△ 47,240
委託費	4,371,720	2,829,278	1,542,442
支払報酬	1,147,183	1,290,207	△ 143,024
消耗品費	227,913	296,124	△ 68,211
旅費交通費	117,677	160,118	△ 42,441
通信運搬費	1,132,197	1,276,992	△ 144,795
印刷製本費	2,361,431	2,241,572	119,859
広告宣伝費	3,052	0	3,052
渉外費	18,721	48,255	△ 29,534
諸会費	136,102	126,102	10,000
加盟分担金	5,086,000	8,056,000	△ 2,970,000
新聞図書費	21,632	80,408	△ 58,776
研修費	302,140	467,000	△ 164,860
賃借料	44,258	95,328	△ 51,070
リース料	172,818	305,495	△ 132,677
修繕費	249,547	114,133	135,414
衛生清掃費	336,332	407,761	△ 71,429
光熱水費	1,621,941	1,627,460	△ 5,519
保険料	347,652	417,626	△ 69,974
公租公課	1,012,171	960,871	51,300
支払寄付金	20,000	0	20,000
保守点検料	296,855	355,263	△ 58,408
雑費	134,948	65,273	69,675
減価償却費	2,283,174	3,183,478	△ 900,304
經常費用計	899,630,838	861,408,769	38,222,069
評価損益等調整前当期經常増減額	△ 4,466,901	△ 17,193,098	12,726,197
基本財産評価損益等	0	11,000	△ 11,000
特定資産評価損益等	5,253,000	17,430	5,235,570
評価損益等計	5,253,000	28,430	5,224,570
当期經常増減額	786,099	△ 17,164,668	17,950,767
2. 經常外増減の部			
(1) 經常外収益			
①その他の雑収益	1,866,860	4,068,755	△ 2,201,895
還付金	1,866,860	4,068,755	△ 2,201,895
②受託収益	8,200,000	0	8,200,000
③固定資産売却益	296,000	0	296,000
車両運搬具売却益	296,000	0	296,000
經常外収益計	10,362,860	4,068,755	6,294,105
(2) 經常外費用			
①固定資産除却損	10,095	0	10,095
什器備品除却損	10,095	0	10,095
②受取補助金等返還額	223,000	1,736,000	△ 1,513,000
經常外費用計	233,095	1,736,000	△ 1,502,905
当期經常外増減額	10,129,765	2,332,755	7,797,010
当期一般正味財産増減額	10,915,864	△ 14,831,913	25,747,777
一般正味財産期首残高	1,962,378,433	1,977,210,346	△ 14,831,913
一般正味財産期末残高	1,973,294,297	1,962,378,433	10,915,864
II 指定正味財産増減の部			
①特定資産運用益	32,437	14,583	17,854
特定資産受取利息	32,437	14,583	17,854
②受取補助金等	123,247,336	0	123,247,336
受取地方補助金 助成金	122,947,336	0	122,947,336
受取民間補助金助成金	300,000	0	300,000
③受取寄附金	139,762,454	4,620,024	135,142,430
受取寄附金	139,762,454	4,620,024	135,142,430
④特定資産償還益	0	5,746	△ 5,746
特定資産償還益	0	5,746	△ 5,746
⑤一般正味財産への振替額	△ 110,951,567	△ 18,293,565	△ 92,658,002
一般正味財産への振替額	△ 110,951,567	△ 18,293,565	△ 92,658,002
当期指定正味財産増減額	152,090,660	△ 13,653,212	165,743,872
指定正味財産期首残高	392,935,258	406,588,470	△ 13,653,212
指定正味財産期末残高	545,025,918	392,935,258	152,090,660
III 正味財産期末残高	2,518,320,215	2,355,313,691	163,006,524

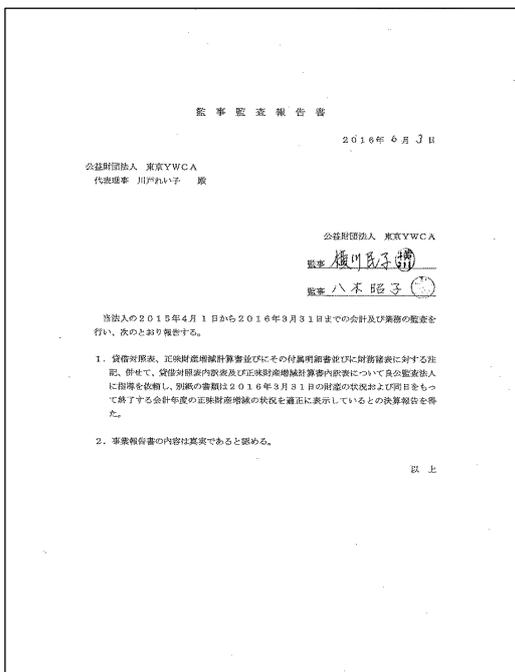
補助金及び助成金
2015年4月1日から2016年3月31日

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次の通りである。

(単位:円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
地方公共団体補助金助成金						
高齢者健康づくり事業補助金	調布市	0	600,000	600,000	0	
調布市延長保育事業費補助金	調布市	0	3,094,400	3,094,400	0	
調布市民間保育所等委託費	調布市	0	112,716,900	92,716,900	20,000,000	特定資産
調布市民間保育所等運営費等補助金	調布市	0	58,091,036	58,091,036	0	
調布市保全地区等の保全に関する補助金(保護樹)	調布市	0	80,000	80,000	0	
三鷹市保育所運営費等補助金	三鷹市	0	780,615	780,615	0	
板橋区心身障がい児療育訓練事業補助金	板橋区	0	11,826,000	11,826,000	0	
東京都保育サービス推進事業補助金	東京都	0	7,356,000	7,356,000	0	
東京都保育士等キャリアアップ補助金	東京都	0	5,389,000	5,389,000	0	
東京都認可保育所屋外遊技場芝生化事業補助金	東京都	0	10,288,000	10,288,000	0	
民間補助金助成金						
東京都共同募金会配分金 肢体不自由者水泳指導のために	福)東京都共同募金会	0	300,000	300,000	0	
東京都共同募金会配分金 園児用プール	福)東京都共同募金会	0	300,000	300,000	0	
東日本大震災被災者支援「放射線量の多い地域に住む子どもと保護者の転地保養」プログラム助成金	福)中央共同募金会	0	620,000	620,000	0	
被災者支援 冬のリフレッシュステイのために	公益財団法人 日本YWCA	0	500,000	500,000	0	
森林山村多面的機能発揮対策交付金	長野県 地域協議会	0	890,000	890,000	0	
子どもゆめ基金助成金(子ども体験活動助成)	独立行政法人 国立青少年教育振興機構	0	1,038,827	1,038,827	0	
独立行政法人福祉医療機構借入金利子補給費	公益財団法人 東京都福祉保健財団	0	567,180	567,180	0	
生活習慣病予防検診費用助成金	社会福祉法人 福利厚生センター	0	48,990	48,990	0	
DV被害者支援の支援現場における次世代リーダーシップ育成事業のために	日本郵便株式会社	0	2,361,000	2,361,000	0	
公益財団法人俱進会助成 学習支援「いちごの部屋」のために	公益財団法人 俱進会	0	617,000	617,000	0	
合 計		0	217,464,948	197,464,948	20,000,000	

■ 監査報告



施設一覧

東京YWCA会館	〒101-0062	東京都千代田区神田駿河台 1-8-11
	TEL	03-3293-5421 (代表) FAX 03-3293-5570

東京YWCA板橋センター	〒174-0043	東京都板橋区坂下 1-34-25
	TEL	03-5914-1854 FAX 03-5914-1852

東京YWCA国領センター	〒182-0022	東京都調布市国領町 7-11-1
	TEL	042-483-5151 FAX 042-483-5207

東京YWCA武蔵野センター	〒180-0006	東京都武蔵野市中町 1-19-16
	TEL	0422-52-3881 FAX 0422-53-1436

東京YWCA野尻キャンプ場	〒389-1312	長野県上水内郡信濃町富濃 3946
	TEL	026-255-2414

公益財団法人東京YWCA

URL: <http://www.tokyo.ywca.or.jp/>

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 1-8-11

2016年6月発行